



2025 AUTUMN No.71

SEASON



写真：第 55 回創大祭での中央図書館

ISSN 1349-3760

コラム

「Soka University Library:

12 A Treasure Trove of Knowledge and Opportunities」

国際教養学部 マルコム・ダカティー 講師

14 特集 「Soka Book Wave 特集」

17 中央図書館 最近の企画展示
ミニコーナー 図書館のとある日常

18 図書館掲示板

Soka University Library: A Treasure Trove of Knowledge and Opportunities

In the rapidly evolving digital landscape, where information is readily available at our fingertips, the vital role of the university library should not be overlooked. Far from being merely a storage space for books, the university library stands as a cornerstone of academic life, offering students a supportive environment for learning, collaboration, and personal growth. Utilizing the university library is an essential part of being a university student.

At the center of the university library lies an extensive collection of resources tailored to support academic pursuits across various disciplines. From vast collections of physical books and academic journals to an array of digital resources like e-books and online databases, university libraries furnish students with the tools they need to succeed in their studies. Access to these carefully curated materials allows students to engage deeply with their subjects, enriching their learning experience.

While digital resources offer convenience and instant access, the physical collection of the library provides a tangible connection to knowledge. There is something unique about the tactile experience of holding a book, flipping through its pages, and annotating margins. Physical books offer an escape from the distractions of screens, allowing readers to immerse themselves fully in the content. This focused engagement promotes deep comprehension and retention, something

that is often lost in the fast-paced digital environment.

Reading physical books has a particular joy that is unparalleled in the digital age. The sensory experience of handling a book—the texture of the pages, the smell of ink, and the weight of the volume—creates a connection between the reader and the material. For many, the act of reading physical books is an intrinsic part of the learning process. This is the way students start their journey of learning in elementary school and is the foundational manner of learning.

Moreover, research has consistently shown that reading physical books can lead to better comprehension and retention compared to digital reading. The non-linear nature of some digital texts and the distraction of hyperlinks can interfere with concentration. In contrast, a physical book offers a linear narrative that allows readers to follow the author's thoughts more easily, promoting a deeper understanding of the material.

The university library is not solely about resources; it is also about creating an environment conducive to study and collaboration. Libraries frequently offer a variety of study spaces—quiet corners for solo work, group study rooms for collaboration, and common areas for interactive discussions. This diverse range of settings accommodates different learning styles and activities, allowing students to choose how they engage with their work.

国際教養学部 マルコム・ダカティー 講師

In addition to study, the library often hosts workshops, seminars, and events that foster academic skills and connect students with their peers. Engaging in these collaborative opportunities allows students to benefit from different perspectives, encouraging a robust exchange of ideas and knowledge.

University libraries also provide vital support services that enhance academic success. Trained library staff assist students in accessing information, honing research skills, and devising effective study strategies. This personalized guidance can be especially beneficial for new students who may feel overwhelmed by the wealth of resources available to them.

Additionally, the library offers services such as interlibrary loans, which allow students to access materials from other libraries, and research databases that support research and academic writing. These tools and services are essential for navigating the complexities of research and academic expectations.

Finally, the university library plays a crucial role in promoting lifelong learning and intellectual curiosity. The diverse range of resources encourages exploration beyond one's major field of study. By exposing students to various subjects and perspectives, libraries inspire creativity and a broader understanding of the world around them.

In an age where misinformation is rampant, the library serves as a bastion of credible knowledge. It teaches students how to



evaluate information, fostering critical thinking skills that extend beyond academic pursuits. In conclusion, the university library is an indispensable institution that offers a wealth of resources, support, and a vibrant learning environment. Its role in promoting academic success cannot be overstated. By embracing the offerings of library, including the exceptional experience of reading physical books, students can enrich their educational journeys and cultivate a deeper appreciation for learning. As a refuge for knowledge and a cornerstone of intellectual growth, the university library remains a vital partner in the pursuit of academic and personal excellence.



SBW とは

2004年1月22日、創立者が中央図書館を訪問され、試験勉強中の学生を激励し、「読書は勝利者の源泉」「読書は黄金の輝き」など数々の箴言を贈ってくださいました。そのうちの5つが『創価大学図書館指針』として、永遠に刻まれるものとなりました（2004年3月17日）。



この創立者の激励にお応えしたいと、学生の読書意欲は更に向上了し、実質的に読書運動がスタートし、多くの学生が読書に挑戦しました。

- そして、これまでの複数の団体が読書運動を開催する形態から、全学一体で読書運動に取り組んでいきたいとの学生の思いが結集し、創価大学・創価女子短期大学に読書の気風を創るべく、2005年全学読書運動として「Soka Book Wave (SBW)」の名称でスタートしました。



SBW に参加してみよう

感想文の提出やイベントに参加することで、SBW ポイントがたまります。

ポイントを50ポイント集めると、図書カード(500円分)と交換できます。

<感想文>

図書館ウェブサイトにおいて、「SBW 参加登録」をすると本の感想を記録することができます。



『銀河帝国の興亡』
アイザック・アシモフ著；厚木淳訳
東京創元新社
EC-2/FL/A

2500万の惑星を擁する銀河帝国に没落の影が兆していた。心理歴史学者ハリ・セルダンは3万年に及ぶ暗黒時代の到来を予見。



«図書館ウェブサイト
・SBW トップページ»



SBW 展示

2階閲覧室廊下前にて2025年9月に展示していたのは「超傑作SF選」展と「ワールド会×SRP留学おすすめ選書」展。それぞれの展示に携わった方にお話を伺いました。



<「超傑作 SF 選」展・文学部3年 清水正行さん>

– 現在実施中の「超傑作 SF 選」展。どのようなテーマで作られましたか？

SF作品が大好きなんですが、なかなかSFの話が通じる人がいなかったんです。

純SFでも、「こんなに面白いモノがあるんだよ」ということを伝えたくて企画しました。

– 中央図書館で出会ったSFはありますか？

『プロジェクト・ヘイル・メアリー』（アンディ・ワイアー著；小野田和子訳、早川書房、939.13/W55）です。

父もSFが好きなんですが、父の友人から紹介されてぜひ読みたいと思ったSF作品です。

普通はあらすじを紹介されると思いますが、この本はあらすじを見ないで読んでほしいと言われました。

その通りに読んでいたところ、本当にあらすじを知らないよかったです。面白さにびっくりしました！！

– 展示の準備はどれくらいかかりましたか？

本を選んでから、どう紹介すれば読んでもらいやすくなるかをみんなで話し合い、『SF度』というものを考えました。

そしてSF度とともに本紹介のワンフレーズを考えました。

準備期間は1ヶ月ほどだったと思います。

– 展示されている本、全てに思い入れがあるかと思いま
すが、特におすすめの本を教えてください。

SFを大好きになったきっかけの本は、『銀河帝国の興亡』（アイザック・アシモフ著；厚木淳訳、東京創元新社、EC-2/FL/A）という本です。アイザック・アシモフさんのファンデーションシリーズと言われているものです。

高校時代、図書館の司書さんに勧めもらいました。こんな面白い本があるとは、本当にびっくりしました！！

– 最後に読者の皆さんにメッセージをどうぞ。

自分の好物が何であれ、図書館に行って、ただ眺めて見るだけでも面白そうな本が必ず見つかると思います。ちょっとした時間でも、是非図書館に行ってみてほしいなと思います。



<「ワールド会×SRP留学おすすめ選書」展・文学部4年 中川和也さん>

– 今回のワールド会展示のテーマを一言でいうと、どんなものですか？

今回の展示のテーマは「読書を通して知のパスポートを手に入れる」です。

創価大学の交流校のある地域を中心に、世界各地の偉人の伝記や文学作品を選書しました。読書を通して世界を旅する感覚を味わって欲しいという思いを込めています。



『星を継ぐもの』
ジェイムズ・P・ホーラン著；池央耿訳
東京創元新社
EC-2/FL/A

月面で発見された、真紅の宇宙服をまとった死体。綿密な調査の結果、驚くべき事実が判明する。



展示の構成も、北米・アフリカ・ヨーロッパ・中南米・アジア・オセアニアと地域ごとに紹介する形式にし、読書で世界を一周できるように工夫しました。普段手に取らないジャンルにも自然と関心が向くように、テーマ性と親しみやすさのバランスも意識しています。

-準備の中で特に印象に残っている出来事はありますか?

春学期のはじめに「留学×読書」というコンセプトだけを持ってSRPの方と打ち合わせを行った際、こちらの意図を正確に汲み取り、素晴らしい書籍リストを提案してくださったことが印象に残っています。

-展示を通して「ここを見てほしい!」というポイントはどこですか?

まず一つ目は、ワールド会広報部門のスーパーデザイ

ナーによるPOPデザイン。書籍の魅力が一目で伝わるよう、配色や余白、文字配置まで丁寧に仕上げています。

二つ目は、読み手を想像しながら言葉を選んだPOPの文章。誰が読んでも「ちょっと読んでみようかな」と思えるような語り口を意識しました。

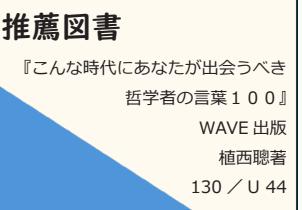
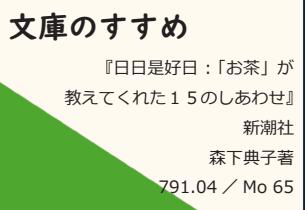
そして三つ目は、地域ごとに特徴が際立つ選書です。どの本も、その土地の文化や思想が息づく一冊になっており、世界をめぐるように楽しめます。

-今後、また展示をするとしたら挑戦してみたいテーマはありますか?

今回は「地域」という軸で構成したため、次は「時代」をテーマにしてみたいです。同じ国でも時代によって思想や文学の表現がどう変化したのか知れる展示があると素敵だなと考えています。また、展示だけで終わらず、感想カードやQRコードなどを通して読者同士がつながれる仕掛けを取り入れてみたいです。

SBW 推薦図書コーナー

中央図書館2F、ブラウジングルーム前の廊下に書架があります。SBWの書架には、4つのカテゴリがあります。本の表紙には「SBW」と書かれた各カテゴリの色ラベルがついています。今回は、それぞれのカテゴリに並ぶタイトルを一部ご紹介します。



最近の企画展示



8月展示「大江戸展」

江戸時代に花開いた文化をテーマに、特に浮世絵や文学、学問書などを中心に、視覚的に楽しめる展示となっています。



9月展示
「夏の怪談 ホラー特集」

長く続いた厳しい残暑。寝苦しい夜を涼しく過ごすためにぴったりな本をあつめました。



SDGsとは何か? 皆さんに分かりやすく、基本から展望まで幅広く網羅した展示になりました。



2025.6.27 (Fri)

ビブリオバトル

SRP主催ビブリオバトルを開催しました。当日は、3名のバトラーがそれぞれのおすすめ本を紹介、熱いバトルを繰り広げました。

今回、チャンプ本には、文学部4年・中川和也さんが紹介した『人間の建設』(小林秀雄・岡潔著)が選ばされました。



2025.7.29 (Tue)

絵本ブッククラブ

「絵本ブッククラブ」を開催しました。当日はグループに分かれて、以下の絵本から数冊を選び、読み合わせ、内容を深め合いました。

『100万回生きたねこ』
佐野洋子 作・絵
『くまとやまねこ』湯本香樹実 文・酒井駒子 絵など

2025.9.3 (Wed)

全国大学ビブリオバトル2025 関東Cブロック予選会

1階ラーニング・コモンズにてブロック予選会が開催されました。10月には関東Cブロック決戦が行われ、決戦で勝ち抜いた方は、11月23日に長崎県で開催される全国大会への出場が決定します。



2025.7.11 (Fri)

東京富士美術館

「手塚治虫展」記念

ワークショップ

中央図書館にて東京富士美術館 手塚治虫展 記念ワークショップを行いました。「バトルマンガ」としての『ヅッダ』～戦後マンガに果たした手塚治虫の役割～をテーマに文学部・森下達先生がレクチャーを行い、最後に参加者同士で「バトルマンガ」について語り合いました。



2025.7.30 (Wed)

オンラインイベント

「グローカルジャーナリストが語る
『情報と言葉の力』」

西日本新聞社の坂本信博氏を講師に迎え、オンラインで講演会を開催しました。坂本氏は初めに「マイノリティの声を届ける」ことを記者として自身のライフワークにしていることを述べ、入社以来携わった多くの事例を紹介。「グローカルジャーナリスト」には「広域的な視点で地域に根ざした取材をし、グローバルな視点を持ったローカルニュースを届ける」との意味があることを語りました。読書については「ショート動画などが広まる現代において、時間をかけて本を読むことには、映像や音楽ではない、頭と心を耕す力があります」と読書の重要性を語られました。



TOSHOKAN 図書館掲示板 KEIJIBAN



8:30~21:00

10:00~17:00

9:00~21:00

休館

10

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

書庫利用講習会のお知らせ

中央図書館の書庫を利用する入庫資格を希望される方は、この講習会を受講してください。
一度受講すると、入庫資格は在籍期間中（卒業まで）有効です。
池田文庫をはじめ、貴重な資料と出会える機会です。ぜひ、ご参加ください。
開催日時、申込方法などの詳しい情報は、図書館ウェブサイトにてお知らせいたします。

冬休み長期貸出のお知らせ

大学の冬季休業に伴い、図書の長期貸出が始まります。この機会にぜひ、たくさんの本に出会ってください。

学部生・別科生・短大生：2週間貸出者

12月9日(火)～12月22日(月)

教職員・大学院生・通教生：4週間貸出者

11月25日(火)～12月16日(火)

一斉返却日：2026年1月14日(水)